



# T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

国際ロータリー第2750地区  
創立2004年12月8日  
東京六本木ロータリークラブ

超我の奉仕  
国際ロータリークラブ会長

知り合っ、楽しく学ぶロータリー  
東京六本木ロータリークラブ会長

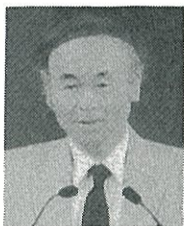
## WEEKLY REPORT

2006. 6. 12

No. 40

### 山の手東グループ7クラブ合同例会卓話 「国家の品格」

お茶の水女子大学理学部数学科  
教授 藤原正彦氏



藤原です。伝統ある会に招いていただきありがとうございます。現在この日本を見るとかなりおかしくなっている。ここ数年、ものすごい勢いで改革しているけど全然良くなならない。改革は改善と違って改悪になることも多い。従ってよく見極めないといけない。

最近経済が少し良くなったと言われますけれど、中小企業とか地方は変わらないと言ってます。外交に目を転じてほとんどアメリカの植民地になってしまった。中国や韓国から文句言われて、ただ土下座して謝罪する。経済は特に金融機関がかたっぱしからやられました。長銀なんて10億円ぐらいでアメリカ企業に買われ、株式上場で数百億とか儲けられてさっさと逃げられてしまった。教育では個性の尊重とか言っている。尊重どころか今は子供におもねている状態です。私は子どもは厳しく指導しなければと思うのですが、厳しくしたら傷つく恐れがあるという。どのような教育改革しても子供におもねる気持ちがある限り絶対にうまくいきません。今、教育関係者が小学生に独創性を育むなどと余計なお世話をしている。しかもこれからは国際化だから英語、情報化だからパソコンという論理です。そして国民はそれを皆支持する。悪いのは国民です。民主主義国家は真のエリートが必要で国民が国をリードすることは能力的に不可能です。文学、芸術、歴史、哲学などの教養を身につけ、庶民とは圧倒的に違う総合判断力を持ち、いざとなれば国家、国民のために命を捧げる気概を持つのが真のエリート。これが日本からいなくなってしまった。現在の日本は民主主義の弊害が非常に出ている。

改革の方向も分からない、しかも外国の真似ばかりする国になってしまったのは二つの大きな理由があります。一つは日本人が戦後祖国に対する自信と誇りを失ってしまったこと。GHQが日本の過去の文化、歴史、伝統、特に明治、大正、昭和を否定した。一方、江戸時代まではすでに明治政府によって否定されている。封建主義で国民はみんな圧制のもとであえいでいたというわけですね。日本は極東の小さな島国で日清戦争まではほとんど世界中が知らなかったのに、明治になってたった37年で世界最大の陸軍国ロシアをやっつけてしまった。戦前は世界の3大海軍国の一つでダントツに強かった。戦後は廃墟の中からたった30数年で世界第2の経済大国を作った。10年以上不況でもアメリカを除くどの国も追いつかない。なんでこれほど強力なのか。本当に不思議な国です。

この異常さの理由は日本の国柄にあったわけです。日本の国柄とはなにか。例えば縄文時代のころから多分世界で最も道徳、倫理の発達した国だったこと。あるいは江戸時代から世界でダントツに高い識字率。初等教育のずば抜けたレベルの高さ。これは徹底的に鍛えたからです。叩き込むことで圧倒的に高い平均があり、品質管理なんかも最高だった。これが日本の強さだったのに、これすらも今捨てつつある。あと10年もすればもう全く普通の国になってしまう。

自信と誇りを失くしたことが普通の国になりつつある一つの理由。もう一つは明治時代の欧米化。特に戦後余りにも論理とか合理が幅を利かせてしまったことです。現在の文明、全て科学技術で出来てい



て、その基礎にあるのは論理、合理である。それで人類は幸福になれると世界中が信じてきた。しかしそれだけではうまくいかないことがだんだん現れてきた。これがここ数年先進国を被っている荒廃の原因です。じゃあどうしたらよいのか。

日本には「美しい情緒」とか「形」がある。「美しい情緒」は、例えば自然に対する繊細な感受性。虫の音を音楽のように聴き、潔く散る桜に人間の命を投影する。また自然に対する畏怖心。欧米人にとって自然は征服すべき対象ですが、日本では自然は偉大なもので、ただただひざまずいてきた。この気持ちがないと自然環境なんてあっという間に壊されてしまう。そして家族愛、郷土愛、祖国愛。この3つの愛がしっかり身に付いていれば、他国の人々の同じ思いも理解でき、従って戦争を抑止する力になる。それから「形」とは、多くは武士道精神からくる勇気とか正義、名誉と恥、卑怯を憎む心です。このような「美しい情緒」と「形」がこれから非常に重要になってくる。例えば市場経済、自由競争という欧米の論理は、大きいものと小さいものが戦っても公平に戦ったならいいというものですね。ところが日本人にとって6年生と1年生が公平に戦うことはすでに卑怯なんです。公平であるとか論理的に正しいことが全てでは無い。いろいろな価値観があることを、この美しい情緒と形で補完しないとイケない。これを日本人が身につけて日本をすばらしい国にすると、世界中が、なんであんなに治安が良い、人々が穏やかで教養に溢れた、芸術や文化の発達した国なんだと、その秘密を探るわけですね。なるほど日本人は美しい情緒と形を持っている。これが秘密なんだと世界が見習うようになる。即ち日本人が美しい情緒と形を身につけることが、日本を救い、世界を救うことになる。日本人として生まれてきた意味は実はそこにあると思うわけです。ご静聴ありがとうございました。

## 卓話者の略歴

西園寺 昌美 (さいおんじ まさみ) 様

財団法人 五井平和財団会長。ワールドピース プレイヤー ソサエティ代表。

祈りによる世界平和運動を提唱した故・五井昌久氏の後継者として、《白光真宏会》会長に就任。その後、非政治、非宗教のニュートラルな平和活動を推進する目的で設立された《ワールドピース プレイヤー ソサエティ(国連NGO)》代表として、世界平和運動を国内はもとより広く海外に展開。1990年12月、ニューヨーク国連本部総会議場で行なった世界各国の平和を祈る行事は、国際的に高い評価を得た。1999年、財団法人《五井平和財団》設立にともない、会長に就任。21世紀の人類の指針となる『生命憲章』を発表。講演や多くの著書を通じて人々に生きる勇気と感銘を与えている。ブタペストクラブ名誉会員。世界賢人会議(WWC)メンバー。『無限なる幸せ』『あなたは世界を変えられる(共著)』(以上、河出書房新社)など著書多数。

6/5のニコニコBOXは紙面の都合で来週の週報に掲載させていただきます。

### 本日のプログラム

“意識革命”人類が生き残るために  
今私達は何をなすべきか

(財)五井平和財団会長

ワールドピースプレイヤー ソサエティ代表

西園寺 昌美 様

### 次回のプログラム

平成18年6月19日

江戸東京博物館館長

竹内 誠 様

## 東京六本木ロータリークラブ

会 長 小竹直隆 幹 事 小島 篤

会報・広報  
委 員 長 安井悦子

会報・広報  
副 委 員 長 渡辺美智子

〈事務局〉〒106-0032 東京都港区六本木6-10-3 グランドハイアット東京内 TEL 4333-8773 FAX 4333-8774

〈例 会〉毎週日曜日 午後12:30~13:30

〈例会場〉グランドハイアット東京